

# アザレアのまち音楽祭2015

## マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑦	⑧	⑨	⑩
シ			⑧	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑦	⑧
ン		⑤	⑥	⑦
↑	④		⑤	⑥
↓	③	④	④	⑤
			③	④
	①	②	②	③
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価 横軸は定量評価)  
演奏レベルの高さ 観客動員数  
①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

## マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑥	⑦	⑧	⑩
シ	⑥	⑥	⑦	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑥	⑧
ン	④	⑤	⑤	⑦
↑	④	④	⑤	⑥
↓	③	④	←	→経済尺度 ⑤
	③	③	③	③
	②	②	③	③
	①	①	②	③
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価↑ 横軸は定量評価→)  
演奏レベルの高さ 観客動員数

①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

評価の仕方⇒プログラム構築・演奏のレベルによって総合的な評価を縦軸で観客動員数の基準に照らし評価

○サロンの基準値は 60 人

○小ホール基準値は 200 人

○ホールの基準値は 700 人 ( )は昨年度

オープニング・ナイトガラ・コンサート 入場者数 51(70)

⑦⑧	⑦⑦⑧
⑤	

[コメント/楽しいガラでした。(松田)7/プレゼントコーナーも含めて、気楽に楽しむ会だが、まだ認知度が低いのでは?(尾坂)7 評価 7 点] **集客について再検討の必要がある。内容については文句なし。**

【オープニング・コンサート】 入場者数 1,040(738)

	⑩⑩⑩⑩
	⑩⑩
	⑦

[コメント/演奏も入りも素晴らしい。(松田)10/観客数、演奏レベル共に最高。本公演への期待を高めたコンサートとなった。(尾坂)⑩評価 10 点] **こんなに集客できるとは思ってもみなかったと謙虚に言うところですが、今回は入るべくして入ったと自負している。演奏内容も文句なし、むしろ出来過ぎの感あり。**

【光長真理恵ソプラノ・コンサート】 入場者数 62(86)

	⑨
	⑦⑧⑧⑧

[コメント//評価 8 点] **内容的にはまったく文句なく楽しんで戴けるコンサートであった。アザレアのまち音楽祭のレジェンドになっている。**

【佐々木道也・コンサート】 入場者数 73(96)

	⑧⑧⑨
	⑦

[コメント/9/評価 8 点] **大変おこがましいが、音楽することの喜びにあふれたコンサートであった。音楽がテクニックを越えたところで、聴衆の心に飛翔するキューピットの羽ばたきを感じさせるものであった。特に、よく知られたメロディーたちを、お洒落なリズムに乗せて演奏し、聴衆の心をとらえる様は、見事としか言いようがない。音楽することをプレイと言うが、プレイとは、遊ぶことや、何かを為すことであり、正に Play が Prey にメタモルフォーゼする瞬間を、佐々木氏の演奏から聴きとれる。素晴らしいことだ。**

【小椋順二ホルン・コンサート】 入場者数 52(56)

⑧⑧ ⑦⑧	⑦

〔コメント／話が長すぎ、演奏の精度がもう一つだった。(尾坂)7/評価8点〕ホルンは、確かに難しい楽器であり、プロだってミストーンを出してしまうもの。いかにミス無くすかが、プロの真骨頂である。

【アザレア弦楽四重奏団】 入場者数 56(43)

⑧⑧ ⑥⑦	

〔コメント／8/評価7点〕今回は観客動員が少なかったが、これは事務局の怠慢かもしれない。演奏がいくら素晴らしいとしても、その素晴らしさを事前に広報できなければ、観客動員は測れない。マーケティングに工夫が必要。

【パープeltaウン・コンサート】 入場者数 300(300)

	⑧ ⑤⑦ ⑧

〔コメント／8/評価7点〕「中学生の演奏にしては」というカッコを付ければ、それなりに評価できるが、人前で演奏するのであれば、最善を尽くしてほしい。練習不足が否めない。大人の民謡のレベルは相当高いものであった。何事も完成度の高さを求めてほしい。しかし、中学生たちのエンターテイメント能力はかなりのものであり、楽しむことが墮れた。

【鈴木雪絵ソプラノ・コンサート】 入場者数 41

⑧⑧ ⑦ ⑥	
④	

〔コメント／7/評価7点〕何しろ観客が少なすぎた。久々の登場なので、もっと積極的な広報が必要である。演奏については、意欲的なプログラムを組み、聴衆を魅了した。特に、第二部で歌ったファリャとヴィラ・ロボスは圧巻であった。より多くの聴衆の皆様に、聴き続けていただきたいソプラノである。

【中原美幸ソプラノ・コンサート】 入場者数 86

	⑨⑨ ⑦⑧⑨

〔コメント／9/評価9点〕完成度の高い演奏であり、聴衆の満足を勝ち取っていた。

【新田恵理子ピアノ・コンサート】 入場者数 211(170)

	⑨⑨⑩ ⑧⑧ ⑤

〔コメント／聴き応えのあるプログラムだったが、二台の曲の精度がもう少し欲しかった。(尾坂)8/評価9点〕ゲストに大物のピアニストを招聘し、レベルの高いコンサートビルドを図っていた。これは、アザレアのまち音楽祭のサロンの趣旨からすれば、禁じ手に近いが、聴衆の支持が多々あり、容認すべきだと感じた。次回は、完全にソリストとしてのコンサートを期待してい。既に固定的な客層を確保している数少ない演奏家の一人であり、地域に遍在する演奏家として確固たる地位を築いている。

【佐々木まゆみソプラノ・コンサート】 入場者数 80(102)

	⑨ ⑧⑨⑨ ⑦

〔コメント／9/評価9点〕固定したファン層が出来上がり、安定したコンサート運営が可能であった。演奏については、これからますます旬を迎えるであろう進化の途中であり、目が離せない。

【木村恵理ファゴット・コンサート】 入場者数 50(58)

⑧ ⑦⑧ ⑤	⑦

〔コメント／もう少し客数があれば…。(尾坂)7/評価7点〕問題は、ファゴットと言う楽器の魅力を、事前に広報する努力が不足していた。演奏レベルの高さは、既にプロとして十分なものであり、その魅力をスタッフがどのように、まだ聞いたことの無い聴衆に知らしめるかが、実行委員会の大きな課題である。もっと多くの市民にアピールする手立てを考え実行すること。

【西岡千秋バトン・コンサート】 入場者数 63 (92)

	⑨ ⑧⑧⑧⑧

〔コメント／安定感のある楽しいコンサートだが、客数が少なめ? (尾坂)8/評価9点〕 今回のコンサートは、アザレアのまち音楽祭サロンの究極の姿を呈していた。サロンの最も響きのよい客席数 60 に近く、アザレアのまち音楽祭最古参で、最も安定感のある大ベテランの歌唱は、聴衆を音楽の桃源郷に確実に連れて行ってくれた。素晴らしいの一言に尽きる。

【中野隆尺八・コンサート】 入場者数 49 (54)

⑧⑧ ⑧⑧ ⑤	

〔コメント／8/評価8点〕 中野氏の尺八は、箏のプロ奏者山路氏のサポートにより、格段の進化を実現させてきている。その演奏レベルの高さは、偏に山路氏に負うところが大きい。あと数年すれば、箏のレベルに拮抗する演奏が聴けるのではないかと期待している。

【ブレーメン・コンサート】 入場者数 250 (350)

⑦⑦	⑨ ⑨
	⑥

〔コメント／バンドのレベルが高く、楽しい。(尾坂)9/評価8点〕 社会人バンドとしてのスタンスは、充分に担保されている。特に、ポップスにおけるリズムセクションの素晴らしさは群を抜いている。今後のプログラムにクラシカルな曲を挿入し、音楽的な表現を見せてくれる演奏を期待している。

【岸本聖華ピアノ・コンサート】 入場者数 71 (95)

	⑨ ⑧⑧⑧ ⑥

〔コメント／学生らしく、真摯で、よく準備されたハイレベルな演奏は、聴かせた。(尾坂)8/評価8点〕 とてもよく練習しており、好感を持たせる演奏であった。しかし、まだ借り物の音楽づくりである感はぬぐえず、自発性のある演奏を期待したい。

【田中直子ソプラノ・コンサート】 入場者数 30

⑦⑦⑦⑦ ⑤	

〔コメント／お客さんが少なく、さびしかったが、美声で、よく準備されていた。(尾坂)7/評価7点〕 観客動員数が、極端に少なかった。何が原因なのかは定かではないが、担当スタッフの努力が足りなかったことは確かである。スタッフは、観客動員して「なんぼ」のもんだとの意識が必要である。

【鶴崎千晴メソソプラノ・コンサート】 入場者数 79 (68)

	⑨ ⑨ ⑩ ⑧ ⑨ ⑤

〔コメント／年々、味わい深い歌が聴けて楽しみ。(尾坂)8/評価9点〕 安定感のある見事なコンサートである。特に聴衆の理解を誘う選曲の見事さは、素晴らしいの一言である。

【山城裕子ピアノ・コンサート】 入場者数 72 (92)

	⑨ ⑨ ⑩ ⑦ ⑧ ⑨

〔コメント／精力的なプログラムで期待したが、少々荒削りで、精度にかけて残念。(尾坂)7/評価9点〕 演奏にむらがあったのは事実だが、総じていえば、大変レベルの高い演奏であり、プロとしての風格が感じられた。

【杉山清香クラリネット・コンサート】 入場者数 57 (59)

	⑧⑨ ⑧⑧

〔コメント／9/評価9点〕 クラリネット吹きは多々いるが、聴衆の表情を満足感に浸らせる奏者は、杉山氏を置いて、ザラにいるものではありません。ウェーバーの協奏曲など、聴衆にとって初めて聴く曲なのに、聴き親しんだ曲を聴くような、ゆとりのある表情をさせてしまう名人である。毎回、会場は響きにとってベストな席数が埋まり、豊かなクラリネットの響きを聴くことが出来る。まだ、杉山氏のクラリネットを聴いたことの無い方には、是非ともお聴きされますことをお勧めします。

【寺内智子ソプラノ・コンサート】 入場者数 107

	⑨⑩⑩⑩ ⑥

〔コメント／言うことなしの美声と完璧な歌唱力。(尾坂)10/評価10点〕まったく文句なしのコンサートであった。お客が入り過ぎて、会場が少しレッドになったが、持ち前の声量が功を奏して、素晴らしい演奏になった。

【曾田千鶴ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 43

⑧⑧ ⑦⑦	

〔コメント／7/評価8点〕曾田さんの演奏は、ますます進化している。正直言って、あれほど巧いと気付くなど迂闊であったと思わせた。問題は、観客動員である。再検討が必要。

【吉田明雄バイオリン・コンサート】 入場者数 309(297)

	⑨⑩⑩ ⑧⑧

〔コメント／10/評価9点〕満席状態のコンサートとなった。演奏も素晴らしく、満足感が聴衆に溢れていた。

【塩崎めぐみメゾソプラノ・コンサート】入場者数 61(75)

	⑨⑨⑨ ⑩ ⑧⑧

〔コメント／迫力ある表現力で、流石プロの圧倒的な演奏だった。(尾坂)10/評価10点〕まったく文句ない、素晴らしいコンサートであった。

【山本亜美&重道博世P・コンサート】入場者数 208

	⑨⑨ ⑧⑧ ⑥

〔コメント／良く準備された、精力的で楽しいコンサートとなった。/評価8点〕十分に楽しませる、よく練られた演奏であった。観客動員に努力が必要。

【渡邊寛智バス・コンサート】 入場者数 60(H327)

	⑨⑨ ⑦ ⑧⑧

〔コメント／9/評価8点〕このコンサートは東京出張で聴いていませんが、その実力の程は十二分に知っています。アンケートコメントでも大好評だったようです。

【逸見康孝ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 121(99)

	⑨⑩⑩
	⑤

〔コメント／10/評価8点〕辛口の批評もあったようですが、観客動員力、演奏力共に高く、ヴァイオリン愛好家が多々参加していました。素晴らしいコンサートでした。

【稲田真司フルート・コンサート】 入場者数 29

⑦ ⑧	
④④	

〔コメント／4/評価7点〕音楽的なレベルの高さは担保されていましたが、観客が少なく残念です。良いコンサート内容であっても、経済尺度(観客動員数)が低いことが気がかかります。広報が、不十分だったと考えられます。

【ファイナル・コンサート／合唱】入場者数 (553)

⑧	⑧⑧⑧
④	

〔コメント／8/評価8点〕演奏団体の力量の格差が縮まり、どの団体も良い演奏をするようになった。素晴らしい。演奏団体のスキルに合致した演奏曲の選択が、音楽的な破たんをきたす演奏が影をひそめた。

【ファイナル・コンサート／西本江里ソプラノ】

⑧ ⑦	⑩ ⑧⑧

〔コメント／聴衆も喜んでいました。10/評価8点〕西本

氏のコンサートは、これまでで最も良い演奏会になりました。調子は、徐々に上がり、後半の演奏曲はこれまで以上の出来の良さを示していました。今後、進化が続くか？これで横ばいになるかは、本人の努力次第だと思われる。

### 総合的な評価

**松田**／昨年の4555名⇒4200名と、全体として少し減少した客数でしたが、演奏家は良く努力されていると感じます。しかし、マナーの悪い、レベルの低い客層が増えたように思います。来年は、コンサート前にマナー教育（ワンポイントレッスン）と、（音楽鑑賞の）原点に戻り、（啓発活動を）取り入れても良い頃だと思えます。

**中野**／どれもレベルは高いが、観客動員数が少ないものが少々みられる。広報・宣伝に力を入れるべき。

**尾坂**／今年もハイレベルなコンサートが数多くあり、とても充実した音楽祭だったと思えます。演奏家の技量の高さと責任感、その精進に心から敬意を払います。オープニングは1000人を超の最高となり、演奏レベルも素晴らしく、とりアートオペラ本公演への期待をさらに高めて、大成功でした。サロンも、入場者数は色々でしたが内容は充実していました。ただ来年に向けて、観客マナーの問題、若い客層をあやす工夫、そしてオーケストラの問題等、課題山積です。

## ディレクターの総括

### 総合的な評価

アザレアのまち音楽祭は、毎年、経済尺度を横軸にし、音楽的なミッションを縦軸にして評価しています。音楽祭が目標としている「理想的ゾーン」に入るコンサートが70%（77.4%昨年/63%一昨年）、「理想追求型ゾーン」に入るものが30%（22.6%昨年/33%一昨年）であり、一昨年見られた「利益追求型ゾーン」に入るものがありませんでした。

今年度は、様々の要因で大きく黒字決算となりました。しかし、観客動員数が足りない催しが10公演34.4%（昨年26%/一昨年33%）もあり、なかなか改善が難しいようです。

今年度の全入場者数に対する、招待チケットの占める割合が9.5%（昨年14.5%/一昨年28%）と、少なくなっています。しかし、入場総数が4,200人と、昨年を下回りました。（昨年4,555人/一昨年3,628人）と大幅に増加しています。今年度の反省として、サロンの動員率が低かったことがあります。啓発活動を怠ったためかもしれません。運営組織体に油断があってはなりません。

アザレアのまち音楽祭は赤字を出さないことが是であり、組織の健全化の要であります。今年度は、約80万円強の黒字を出しましたが、その主な理由は、オープニングコンサートを、とりアートオペラ公演とコラボしたためです。今年は助成金（10万円）は「ごうぎん」のみでしたが、来年度は、様々な支援財団に申請したいものです。何はともあれ、経営努力の成果が黒字となって顕在化しただけかもしれません。しかし、毎年繰り返しますが、積極的なスポンサー依頼活動を活性化させなければ、アザレアのまち

音楽祭ファンは停滞することでしょう。役員内部でのスポンサーを必要としない体制づくりが必要です。

ちなみに、今年のスポンサー数は23件。昨年は23件、一昨年度は31件、二昨年度は25件であり、減少傾向にあります。また、協賛については、今年度181件、昨年度が151件、一昨年度が153件、二昨年162件少しずつは増加傾向になっていますが、目標とする250件には程遠いものです。要は、実行委員の自覚と努力が必要ということです。

コンサート内容については、これまで通り、大変レベルの高い演奏が提示できましたが、観客動員がついて行けなかったことが大きな反省点です。次年度は、これまでのアンケート・データーを使い、ダイレクトメール等で動員をはかりたいと思えます。

昨年のアンケート調査では、異変が起り男性客が多かったのですが、今年度は通年通りの比率に戻っています。年齢層も、例年通りの結果に拍車がかかっています。70歳代以上が38.7%（昨年31.7%/一昨年35%）、60歳代も31.8%（昨年32.3%/一昨年31%）と高く、60歳以上を合わせると70%を超えます。

コンサートの満足度については、大変満足が65.6%（昨年65.4%/一昨年69%）、満足が33.2%（昨年34.6%/一昨年30%）であり、相変わらず高い評価をいただいています。しかしながら、今年度の特例として不満・大変不満が7件もありました。これは、アザレアのまち音楽祭のパンフレットの巻頭言に対する不満表明であり、コンサートの中身についてのものではないようです。

コンサート様式について、ポピュラー音楽の導入を希望される方が30.1%（昨年32.9%/一昨年33%）と昨年とやや減少傾向にあります。音楽祭の根幹にかかわる大きな問題も含まれますので、アンケート結果に支配されることはありません。

アザレアのまち音楽祭の特徴である地元在住の音楽家の招聘について、中央からの招聘を望む方が今年は45.5%（昨年31.6%/一昨年44%）と再び要請の声が高くなりました。次年度は、増やす方向で検討したいと思えます。料金設定も現状維持を望まれる方が64.7%（昨年52.6%/一昨年67%）とだいたい同じような希望が続いています。